j0297903[1]

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・人形の値段と個数をもとに，売上高を求めることができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・6年「変わり方のきまりをみつけて(1)」などで，表をかいて順序よく調べる学習をしている。

≪学習問題≫

1個50円の人形と1個80円の人形をあわせて20個売ったので，売上高は1450円になりました。

50円の人形と80円の人形を，それぞれ何個ずつ売ったことになりますか。

なん人になりましたか。

しょう。ひらいてできる四角形はどんな

四角形ですか。

教材研究ノート№6-C-5

≪学習問題≫

j0297901[1]

主眼

授業計画･実施記録

②学習課題：表をかいて，人形の売れ方を順序よく調べ，それぞれ何個売れたか求めよう。

②見通し：いろいろな売れ方があって，ごちゃごちゃしそうだ。

→表をかいて順序よく調べていけばよい。

③個人追究：表をかいて順序よく調べ，追究する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 50円の人形 (個) | 0 | 1 | … |
| 80円の人形 (個) | 20 | 19 | … |
| 売上高　　　　(円) | 1600 | 1570 | … |

　この表の売上高が1450円になる個数を調べよう。

　50×１＋80×19と計算していけばいいな。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

④共同追究前半（学習問題の解決）

「表のかき方と答えの求め方を説明しよう。」

→「50円の人形を0,1,2,…と増やし売上高を調べて求めた。」

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 50円の人形 (個) | 0 | 1 | … | 5 | … |
| 80円の人形 (個) | 20 | 19 | … | 15 | … |
| 売上高　　　　(円) | 1600 | 1570 | … | 1450 | … |

④共同追究後半（思考を深める）

「売上高を簡単に求めることはできないかな？」

→「50円の人形が1個増えると売上高は30円減るので，このきまりを利用すればよい。」

→「30円は，2つの人形の値段の違いを表している。80円の人形が50円の人形に代わるのだから30円ずつ減ることになる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・表をかいて順序よく調べれば，すっきり考えることができる。

・2つの人形の値段の違いが，売上高の変わり方のきまりに表れている。このきまりを使って，簡単に売上高を求められた。

⑥定着･活用問題

上の問題で，人形を売った個数が23個で売上高が1450円だったとすると，それぞれの人形を何個ずつ売ったことになりますか。表をかいて求めよう。

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・人形の値段と個数から，一つ一つ売上高を計算して苦労した児童の感想をもとに，ゆさぶりの発問につなげたい。

・上の表と，50円の人形を20,19,18,…と減らしてつくった表を対比することで，表のつくり方によって売上高が増減するわけを，問題場面と結び付けて説明させたい。

・1450円になる組合せが1通りしかないわけを説明させてもよい。の2倍は5倍ではないかという素朴な考えを取り上げることで，ゆさぶりをかけ，説明の必要感を持たせることも大切である。

【板書計画】